

県下の交通事故 (2月23日現在)

区分	事故件数	死者	傷者
62年	537件	7人	733人
63年	628件	19人	815人
比較	+16.9%	+171.4%	+11.2%



◇第79号◇

発行所
甲府市丸の内一丁目6-1
財団法人山梨県交通安全協会
TEL 甲府 (0552)37-7827



僕たちもひと役かうよ交通安全

春の全国交通安全運動

4月6日～15日

子供と高齢者の安全を

二輪車事故も防止

昭和六十三年春の交通安全運動は、四月六日から十五日までの十日間、全国一斉に実施されます。本県では、交通安全本部で決めた運動の重点(1)子供と高齢者の交通事故防止、(2)二輪車の交通事故防止、特に若年運転者による無謀運転の追放、(3)正しい方法によるシートベルト・ヘルメットの着用による徹底、(4)飲酒運転の追放、(5)市街地における交通渋滞の解消、を加えて五つの目標を立てて運動を推進することになりました。昨年は、交通事故死者が前年に比べてわずかに減少したものの六年連続して百人を超え、また、本年も年初から交通事故が増加の傾向にあり、これに歯止めをかけて死者を二桁台に抑止するため県民総ぐるみの運動を展開することにしています。

正しい方法による

シートベルト・ヘルメット着用を

この運動は、県民一人ひとりに交通安全知識を普及し、交通安全思想の高揚を図るとともに、正しい交通のルールとマナーの実践を習慣づけることにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的として行われます。県交通安全対策本部が決

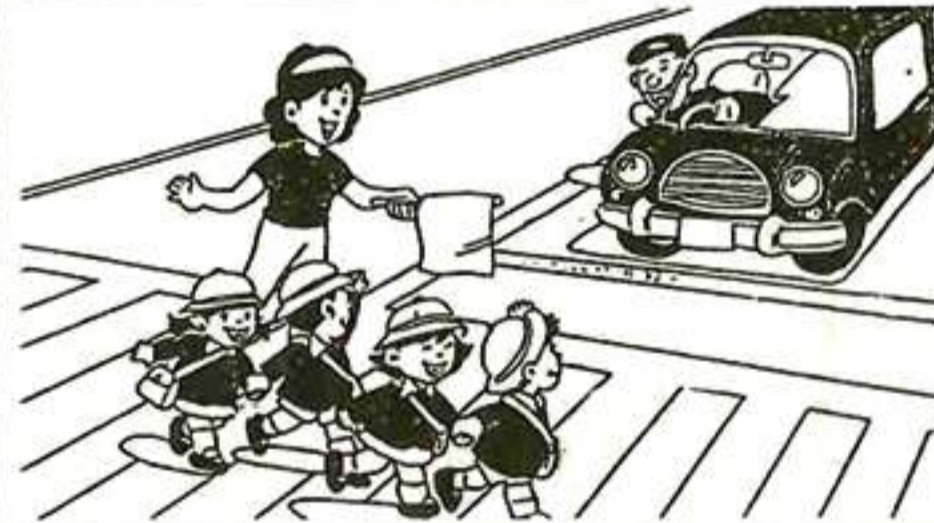
めたおもな運動のすめ方は次のとおりです。

子供と高齢者の交通事故防止

新入学(園)児と高齢者の事故防止を図るために、街頭における指導保護

活動の強化
二、子供、とくに新入学(園)児に対する交通安全教育指導の徹底
三、通学(園)路を中心とした安全な交通環境の確保
四、自転車の正しい乗り方指導と点検整備の促進
五、子供、母親、高齢者の交通安全教育の推進
六、幼児交通安全クラブ、交通安全少年団・高齢者交通安全クラブの育成と組織化の促進

日続中であります。これは、管内の増穂交通安全少年団が県警本部長賞を、また、交通安全協会が全日本交通安全協会会長賞を受賞することができました。これもひとりに関係各位のたゆみない御指導と御協力の賜であると深く感謝いたしております。



七、家庭における交通安全の話合いの励行
二輪車の交通事故防止特に若年運転者による無謀運転の追放

二輪車の安全利用を確保し無謀運転をしないために、若年運転者の特性に応じた安全教育指導の強化
二、身体に合った車両選定と点検整備の励行促進
三、ヘルメットの正しい着用

用と安全走行の徹底
四、運転免許取得時、車両購入時等における講習等の実施強化
五、無謀運転追放による事故防止(安全速度を守る、カーブの手前でスピードをおとす、交差点では安全を確かめる、一時停止で横断歩行者の安全を守る)
六、自動車の適正管理と点検・整備の励行促進
七、家庭、職場及び地域における交通安全についての話し合いの実践
八、無謀運転の追放気運の醸成

正しい方法によるシートベルト・ヘルメットの着用の徹底

正しい着用の実践を習慣づけ事故を軽減するために、正しい方法による着用効果の普及の徹底
二、官公庁、学校、事業所等における指導の強化
三、各種講習会等を利用した正しい着用の徹底
四、家庭等における話し合いの推進と正しい着用の実践

実践

飲酒運転の追放

飲酒運転を絶滅するため
一、飲酒運転のない運動の推進
二、酒類提供業者の協力による飲酒運転の抑止
三、家庭、職場、地域で飲酒運転をしない話し合いの推進
市街地等における交通渋滞の解消と交通事故防止

交通安全の徹底

交通事故や交通渋滞のない「さわやかな交通山梨」の実現のために
一、集会等の機会を利用し「ノーマイカー運動」への参加の呼び掛け
二、官公庁、事業所等職場ぐるみで「ノーマイカー運動」への参加の促進
三、違法駐車排除気運の醸成
四、広報媒体の活用による広報活動の促進

武田騎馬軍団の誇り

山梨県交通安全協会副会長
柳澤 武史



交通安全を減少させるには、遠まわりのようですが、確実にその成果を發揮する交通安全教育に力を注ぐべきであると痛感しております。幼稚園、小学校、中学校それに高等学校と一貫した交通安全教育が必要であると思っております。高校を卒業して運転免許を取る時には、教本など勉

強しなくても全員が満点で学科試験に合格するような教育。また、常に譲りあい、の精神をもった交通安全教育がなされたとき、そのことが社会となり、そのことがイバイとなった時、交通事故は必ず半減するものと思っております。家庭では母親が講習官、父親が講習官となり、



録は限りなく続くものと確信いたします。甲斐の武田騎馬軍団は風林火山の旗のもと全国にその勇名を馳せました。上杉謙信を川中島で敗走させ、徳川家康を馬上で失脚させ、天下無敵でありました。「甲斐の騎馬武者には一騎に三騎が当たるべし」と恐れられた騎馬軍団は、練達の騎手(運転手)と訓練された規律(マナー)とが一体となったからこそ全国一の騎馬軍団として恐れられたのだと思います。その子孫たる山梨県民が現代の騎馬である車を運転するにあたっては、全国一洗練されたマナーを基本とした。甲斐軍団にならうではありませんか。

一九八八年新春の朝を迎えたのが、昨日のようすが、もう周囲の木々に新芽が芽吹き、花の季節も間近に迫っています。今年には戊辰の年、戊とは植物に例えれば地中の種が地上に発芽したときの字義であり、辰とは春の陽気により万物が振起す意だと言われます。まさに新しい事が芽吹く年です。政治面では竹下政権、韓国の盧泰愚制、中国の新体制の本格的始動、アメリカでは新しい大統領の誕生が予想され、経済面では田高が異常なまでに進むなど政経両面で時代の転換期にさしかかっていると云えましょう。天に昇る竜のように今年もさらさら上昇する良い年であるように祈りたい。一月から放映しているNHK大河ドラマ「武田信玄」は極めて高い視聴率をしっかりと伸ばしてスタートを切りました。過日、ドラマのロケ地小淵沢町のオープンセット武田館を見学する機会を増やしました。八ヶ岳山麓を背にした山林の中に敷地一万平方メートル程に大手門、信玄公の主殿、番小屋、馬小屋、見張り櫓、それに水をたたえた堀もあって、セツトとは思えない程の堂々とした出来ばえで、関係者の努力に感嘆した次第です。戦国の世、甲斐山崎の地から「風林火山」の旗印を先頭に京をめざした抜群の軍政家であり民政統治者である公の遺徳、足跡を追って、ますますそのブームは盛り上がり、改めて歴史をふりかえり郷土を見直すよい機会になると思っております。増大する車社会を背景に依然として厳しい交通情勢が続いています。県内では昭和五十七年以來六年連続して交通事故死者が百人を超える原因は、スピードの出し過ぎ、酒酔いなどの無謀運転が多く、安全意識の欠如が指摘されます。安全マインド高揚の教育強化と交通安全実践の県民運動を展開することが求められます。

緑十字金章に輝く

緑十字金章に輝く 第28回交通安全国民運動中央大会

県安協副会長 堀内 益信氏
大月 市 小俣 幸成氏



常陸宮殿下から励ましのお言葉を賜わる

全日本交通安全協会と都道府県交通安全協会主催、警察庁委託事業、総務庁、文部省等関係省庁・団体後援の「第二十八回交通安全国民運動中央大会」が一月二十一日、二十二日の両日東京で開催されました。

第一日は、麴町会館など四会場にわかれて分科集會を開き、評論家生内恰子氏などの基調講演のあと、交通安全の実行方策についての指定都道府県代表の意見発表と基本的方策についての討議が行われました。本県から地域部会に長坂安協・堀内益信会長、県安協・柳沢武夫会長、企業部会に都留安協・堀

内林会長、柳マルアイ、一瀬茂夫総務課長、山梨交通・大柴武夫氏、婦人部会に大月保育園・津田文江園長、甲府警察署・大島美鈴交通巡視員らが参加しました。

大会宣言を採択し、続いて交通安全賞章、優良団体等の表彰が行われました。常陸宮殿下から励ましのお言葉を賜わり、内閣総理大臣(代理)ら来賓の祝辞があつて、年頭にあたり、この一年間交通安全活動への積極的参加を誓い盛会のうちに閉会しました。

本県関係の受賞者は次のとおりです。
〔緑十字金章〕
交通安全功労者 堀内益信 長坂安協副会長
優良運動者 堀内益信 大月市
〔緑十字銀章〕
交通安全功労者 小俣幸成 大月市
交通安全優良団体 都留安協

おせん一家



晴れの交通栄誉章
堀内益信氏
堀内さんは、昭和二十七年五月山梨安協長坂支部上町分会長、同四十五年五月長坂安協常任理事、同年六月

月県安協評議員、同五十五年五月長坂安協副会長、同協理、同六十年五月県安協副会長に就任し現在に至つていますが、三十五年余にわたり交通安全のために

月県安協評議員、同五十五年五月長坂安協副会長、同協理、同六十年五月県安協副会長に就任し現在に至つていますが、三十五年余にわたり交通安全のために



緑十字銀章
小山田隆治氏
小山田さんは、昭和三十年四月山梨安協富士吉田支部役員をはじめ同三十五年富士吉田安協副会長、同五十九年三月同協理、同六十二年三月県安協副会長などを歴任し現在に至つていますが、



向町地内20号線の交通情報板

管轄エリア拡大の効果は、旅行時間で一〇%以上短縮され、国母交差点についてみると、管制エリアを拡大する前の月に比べ交通量が四割増加しているにもかかわらず、渋滞時間(五〇メートル以上発生する渋滞)は八一%も減少しております。

安全運転五則
一、安全速度を必ず守る
二、カーブの手前でスピードを落とす
三、交差点では必ず安全を確かめる
四、一時停止で横断歩行者の安全を守る
五、飲酒運転は絶対にしてはいけない

交通安全スローガン
甲斐路で示そう交通マナー

交通安全スローガン
甲斐路で示そう交通マナー

交通安全スローガン
甲斐路で示そう交通マナー

交通安全スローガン
甲斐路で示そう交通マナー

交通安全スローガン
甲斐路で示そう交通マナー

交通安全スローガン
甲斐路で示そう交通マナー

交通安全スローガン
甲斐路で示そう交通マナー

交通安全スローガン
甲斐路で示そう交通マナー

昨年の交通事故

交通死者は2年連続減少 二輪車事故死者が激増 発生・傷者、大幅に増加

全国の事故

警察庁がまとめた昭和六十一年中の交通事故は、発生五十九万三千四百七十七件、死者九千三百四十七人、傷者七十七万四千九百五十五人（概数）で前年に比べて発生件数は一万九千四百四十四件一・九％、傷者は八千六百五十八人一・一％といずれも増加しました。死者も三十三人〇・三％増加し、六年連続して九千人を超えて、過去十年間の死者では昭和五十八年の九千五百二十一人に次ぐワースト二位の記録となり、一日当たりの死者数は二十五・六人にのぼっています。

本県の事故

県内の昨年の交通事故は、発生四万九千七百七十件、死者六百六人、傷者六万五千六百五十五人で、前年に比べて発生件数は六千八百八十一件一六・九％と大幅に増加しました。交通事故死者は、発生百六件、死者百六人で前年に比べて三・二八％とわずかに減少しました。死者数は二年前連続して減少しましたが、昭和五十七年以後六年連続して百人を超えて二桁台の目標達成はなりません。事故の内容をみると依然としてスピードの出過ぎなどの無謀運転が多く、また、若者や高齢者による二輪車事故が目立ち、安全マインドの高揚が求められています。

死亡事故抑止に全力

ことしは「二桁台」に

県警察は、昭和六十三年中の交通事故死者抑止目標を「死者二桁台（九十九人以下）」と設定し、この目標を達成するために、地域の実情に即した効果的な諸対策をたてて県民の期待に応えるよう最大限に努力することにしていきます。

死亡事故抑止に全力

ことしは「二桁台」に

故死者は百六人で前年に比べて二年連続減少していましたが、人口十万人当たりの死者数は、全国平均七・四人に対し本県は一・九人、高く全国ワースト五位で、前年のワースト三位に続いて依然として厳しい情勢にあります。

死亡事故抑止に全力

ことしは「二桁台」に

故死者は百六人で前年に比べて二年連続減少していましたが、人口十万人当たりの死者数は、全国平均七・四人に対し本県は一・九人、高く全国ワースト五位で、前年のワースト三位に続いて依然として厳しい情勢にあります。

昭和六十一年中の県内の死亡事故の特徴は次のとおりです。
○市町村道等の生活道路で三十三人前年比十六人四八・五％増加した。
○甲府、南甲府等都市部で二十八人前年比八人四〇・〇％増加し、都市周辺で減少している。
○速度超過、通行区分違反、酒酔い等無謀運転が六十五件六五・〇％をしめた。
○死者の年齢別では、子どもが一人前年比七人八七・五％減少し、高齢者が二十一人前年比一人八・八％減少した。しかし、子どもと高齢者の死者は二十七人で全死者の二五・五％をしめた。
○若者側（二十九歳以下）に原因のある事故死者が五十三人五三・〇％と過半数をしめている。

前年比十一人四〇・七％と大幅に減少し、この中で高齢者が十一人六八・八％をしめている。
○県外者による事故は百件中二十件二〇・〇％で前年の三二・四％より減少している。

県警察は、全国の長期目標である年間交通事故死者八千人以下に対し、本県においても百人未満を目標として諸対策を展開したものの、依然減少傾向が定着しないため、本年も重点目標の第一に「交通死亡事故の抑止」を掲げて、抑止目標を達成するために強力な対策を展開することとしています。

警察では、この目標達成のために、
一、良好な交通環境の整備
二、駐車対策の推進
三、体系的な交通安全教育の推進
四、運転者教育の充実強化
五、効果的な交通指導取締

り暴走族等若年運転者対策の推進
六、二輪車対策の推進
七、ひき逃げ、交通特殊事件等に対する捜査の強化
八、高速道路における安全かつ円滑な交通の確保
九、幅広い交通安全活動を展開するための対策の実施

この講習会は、原付や自動二輪車運転者の指導に従事している指導員の指導能力の向上を図るために行うもので、技能講師の特別指導員十九名と指導員・準指導員百十七名が参加しました。講習は、指導員と準指導員に区分し、学科講習と二輪車の技能指導要領を重点に実施講習を行いました。取り組み指導員としての自覚と自信を深めることができました。

武田神社で祈願
交通安全協会と県警交通関係者は、年頭の一月八日、武田神社で今年一年の交通安全を祈願しました。県警の吉田正弘本部長は、県協の中村太郎会長をはじめ、県警交通部幹部、交通機動隊員、高速道路交通安全隊員、県安協役員ら約七十名が参加、バトカー、白バイも社前に参列して神宮からお祓いを受け、吉田本部長、中村会長が玉ぐしをさげ交通安全と交通安全事故撲滅の祈願を行いました。

「自転車の小6死ぬ」への途中トラックにひかれ、これは去年の11月20日、山日新聞に載った記事の見出しです。この事故の被害者は、K君という、とてもやさしい少年でした。K君とはボーイスカウトの仲間だった僕は、その日の夜の悲しい知らせに、その原因がトラック運転手の不注意であり、K君は自転車を引いて横断歩道を渡ろうとしていたということを知り、やり場のない怒りを押しこめることができませんでした。

お葬式には、K君の学校の友達が大勢来ていました。そして、涙で顔がグシャグシャになったK君のお母さん、お姉さん。僕はその姿に胸がえぐられる思いでした。

今年も9月21日から秋の全国交通安全運動が実施されています。「交通安全」の必要性は誰もが知っている。

「安全」「安全」と叫ばれ、交通ルールに対する意識の高さにつきています。「これぐらい大丈夫だ。」「事故なんか起こすはずがない。」そんな一瞬の気のゆるみが、大惨事を引き起こしているのだと思います。

例えは、歩道の中を自転車で走る。しかもスピードを出して人と人の間をすり抜けていくのです。交差点でも左右の確認などせず、車など来るはずがないと思っ、飛び出していき、スクーターゾーンということに甘えて道いばいに

「危険」と思う場面にはしばしば遭遇します。反対側の信号が赤になるやいなや飛び出す車。車の間をぬうように走る二輪車。道路の真中近くをふらふら走る若者の自転車。それだけではない。い、僕たち中学生がマナー違反の主役になっている場合も数多くあります。

「交通安全」の必要性は誰もが知っている。その必要性は誰もが知っている。

交通安全協会と県警交通関係者は、年頭の一月八日、武田神社で今年一年の交通安全を祈願しました。

交通安全協会と県警交通関係者は、年頭の一月八日、武田神社で今年一年の交通安全を祈願しました。

「安全」「安全」と叫ばれ、交通ルールに対する意識の高さにつきています。「これぐらい大丈夫だ。」「事故なんか起こすはずがない。」そんな一瞬の気のゆるみが、大惨事を引き起こしているのだと思います。

例えは、歩道の中を自転車で走る。しかもスピードを出して人と人の間をすり抜けていくのです。交差点でも左右の確認などせず、車など来るはずがないと思っ、飛び出していき、スクーターゾーンということに甘えて道いばいに

「危険」と思う場面にはしばしば遭遇します。反対側の信号が赤になるやいなや飛び出す車。車の間をぬうように走る二輪車。道路の真中近くをふらふら走る若者の自転車。それだけではない。い、僕たち中学生がマナー違反の主役になっている場合も数多くあります。

「交通安全」の必要性は誰もが知っている。その必要性は誰もが知っている。

交通安全協会と県警交通関係者は、年頭の一月八日、武田神社で今年一年の交通安全を祈願しました。

交通安全協会と県警交通関係者は、年頭の一月八日、武田神社で今年一年の交通安全を祈願しました。

交通安全協会と県警交通関係者は、年頭の一月八日、武田神社で今年一年の交通安全を祈願しました。

交通安全協会と県警交通関係者は、年頭の一月八日、武田神社で今年一年の交通安全を祈願しました。

交通安全協会と県警交通関係者は、年頭の一月八日、武田神社で今年一年の交通安全を祈願しました。



甲府北東中三年 名執 斉

「安全」「安全」と叫ばれ、交通ルールに対する意識の高さにつきています。「これぐらい大丈夫だ。」「事故なんか起こすはずがない。」そんな一瞬の気のゆるみが、大惨事を引き起こしているのだと思います。

例えは、歩道の中を自転車で走る。しかもスピードを出して人と人の間をすり抜けていくのです。交差点でも左右の確認などせず、車など来るはずがないと思っ、飛び出していき、スクーターゾーンということに甘えて道いばいに

「危険」と思う場面にはしばしば遭遇します。反対側の信号が赤になるやいなや飛び出す車。車の間をぬうように走る二輪車。道路の真中近くをふらふら走る若者の自転車。それだけではない。い、僕たち中学生がマナー違反の主役になっている場合も数多くあります。

「交通安全」の必要性は誰もが知っている。その必要性は誰もが知っている。

交通安全協会と県警交通関係者は、年頭の一月八日、武田神社で今年一年の交通安全を祈願しました。



お年寄りと交通安全を話し合う

交通安全協会と県警交通関係者は、年頭の一月八日、武田神社で今年一年の交通安全を祈願しました。

交通安全協会と県警交通関係者は、年頭の一月八日、武田神社で今年一年の交通安全を祈願しました。

地区だより



62. 12. 1 甲府市朝日町通りにパーキングチケット発給機が新設される (甲府)



山梨南中で自転車教室を開く (日下部)

免許証の更新をお忘れなく

免許証の更新は有効期間満了日(誕生日)の一月前から申請することができ、(通常の更新)更新手続きに必要なものは免許証、免許用写真一枚(申請前六ヶ月以内に撮影した無帽正面、上三分身、無背景で3×2.4cm)印鑑、更新手数料です。

受付時間は安全運転学校(本校 都留分校)で平日は午前八時三十分から九時三十分、午後一時から二時です。なお八田村の安全運転学校では祝祭日と年末年始の休暇を除く毎日、土曜日と日曜日にも受付を行っています。(優良運転者の更新)二回目以降の更新で前回



年頭小笠原安協白根支部で役員出動式を行う (小笠原)



暴走族への給油お断わりを誓う石油協組嶽南支部(嶽沢)

の更新から三年間を無事故無違反で経過した方は、優良運転者として更新手続きが窓口か安全運転学校本校、分校のどこでも希望するところへ申請することができ、また講習も簡素化講習で短時間で終了いたします。その他、小型特殊または原付免許のみ所持する方、身体障害者、妊産婦で安全運転学校で講習を受けるのが困難な方、六十歳以上の方

更新日の前一年以内に特別講習を受講している方は警察署の窓口でも更新することができます。なお、優良運転者の更新手続きの受付時間は、安全運転学校本校、分校とも、午前八時三十分から十一時三十分まで、午後一時から三時までですが、本校も祭日が休みとなり、分校は祭日と土曜日の午後、日曜日も休みとなります。最近うっかりして更新を忘れてしまっ方が多くなっ

あがな 贖いの日々

アッという間の出来事でした。その瞬間、私の脳裏にはなにも考える余裕すらなく、ただ二年間の運転感覚による瞬発的な動作でブレーキペダルを踏み込み、ハンドルをきると同時に黒い物体が宙に舞い、鈍い音をたてて堅いアスファルトにたたきつけられました。思い起こせばあれは昭和六十一年八月三十一日、夏も終わりのほろだというのに残暑が厳しいころでした。

短気だった私

会社員 20歳

私はその月、無我夢中で一日も休まず働き続け、翌月早々一週間の季節はずれの夏休みをもらう予定でした。その日は、日曜日の朝というので、道路状況も比較的良くてスムーズに車が流れていました。私は、自家用車で仕事現場に向かう途中、国道の三車線あるうちの第二車線を走行していましたが、連日残暑が厳しいですが窓の外から吹いてくる風は、その暑さを忘れさせておりました。日頃から免許証を見る習慣をつけ誕生日が近づいたら有効期限を確認して大切な免許証の更新を忘れないようにして下さい。(交通部運転免許課)

あなたの自転車にTSMマークを はりましょう



女性ドライバーの安全意識向上方策を話し合うドライバー部会

交通事故防止のため 母親活動を活発に 推進大会と講習会開く

県交通安全母の会連合会(鶴田美枝会長)は、一月二十八日、県立総合婦人会館で恒例の交通安全母親活動推進大会・同指導者講習会を開催しました。大会に続いて、昨年同様分科会地域や家庭等の母親活動の方策を討議研修することにして、各地区交母から役員ら約三百人が参加して行われました。大会は、午前十時三十分から大研修室で開会式を行い、諏訪県民生活局長から来賓を迎えて始まり、全員が交通安全活動に熱心なようをささげた後、鶴田会長が「母親が交通安全教育の大切さを自覚し、家庭を基盤に安全の輪を広げ、交通安全の確保こそ国民の福祉につながることを認識して今年も精一杯努力したい」とあいさつし、来賓から心暖まる激励を受けました。続いて子どもとお年寄りを交通事故から守ることを母親活動の柱に交通安全教育を強力に推進する等四項目を重点に運動を進める内容の大会宣言を満場一致で採択しました。開会式後、奈良田県警交通部長の「最近の交通安全教育、事故防止に対する母親活動の地域への浸透と地域特性の活用を要請され貴重な教訓となりました。午後からは分科会で四会場に分かれて地域・家庭・高齢者・ドライバーの四部会を行い、主要テーマを中心に各地区代表二名がそれぞれ意見を発表し、活発な質疑討論が繰り広げられました。分科会のおと再び大研修室で全体会議を行い、指導助言者が部会集約や母親活動の指針を示し有意義な講習会を終了しました。

み寄りでしたが、意識はありませんでした。目の前が真っ暗になり、ぼう然と立ちすくみ、なんとか命だけは助かってほしいと思いましたが、その場で現行犯逮捕され警察に留置されました。私が被害者の死を知ったのは亡くなられてから五日後、接見に見えた会社の社長さんか聞き取りました。血の気が失せる思いがし、同時になんの落度もない被害者の尊い命を私の一方的な過失により奪ってしまったことに取り返しのつかないことをしたと泣いても泣ききれませんでした。できるなら私がああ事故で死ねばいいなとも思いました。後に、家族が会いに来てくれ、こんな私を責めずにくれから一生私たちと償って行こうと言われた時、家族の温かさに涙が出ました。家族には拘留されている私の代わりに被害者のご遺族

に頭を下げ示談交渉をしてもらいたい、また悲しい思い、つらい思いをさせてしまいたい、本当に申し訳なく思っています。私は、事故以来留置場、拘留所を経て、今、市原刑務所に禁錮十月で収容されていますが、刑がこんなにかたがたに被害者のご遺族の方がかたがたに私に対してでも示談に応じたくれ、そのうえ、嘆願書まで書いて頂いたからだと思います。また、会社の社長さんには、法廷で情状証人として立ってほしい。同僚、その他お世話のかたがたに迷惑をお掛けしてすまないと思っております。

私はこの間、市原刑務所で彼岸のときに焼香した他は被害者に対してお参りを直ちに遺族に会い謝罪し、お参りしたいと思っております。詫びても詫びても許してくださると思いたしません。私は一生かけてでも償う覚悟です。最後に、今回の私の事故の原因は、結果的にはわき見による信号無視という形ですが思い返すと私の短気という悪い性格が出たと思っております。この市原刑務所で罪の償いは当然の欠点を直し、精神を鍛え直し、過ちを繰り返さぬようがんばります。(東京交通安全協会発行「青いシグナル」より)

自動車や原付自転車には必ず任意の自動車損害保険代理店 株式会社たいよう共済山梨支店 甲府市丸の内2丁目32-13(日東ビル4階) TEL 0552-28-0691